



ぬくもり



令和5年11月

埼玉大学教育学部附属幼稚園 保健室

少し前まで半袖で過ごせる気候だったのにも関わらず、急に寒くなり上着が必要な気温になりました。秋を通りすぎて、急に冬がきたようです。天気予報などを参考に、服装を工夫して寒さに備えましょう。



咽頭結膜熱(アデノウイルス)

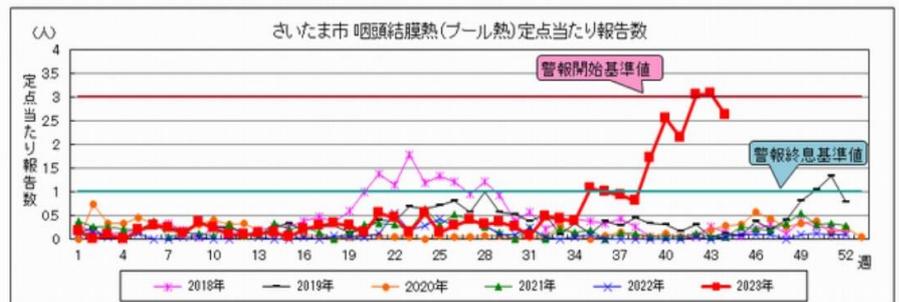
現在、罹患した人が増えている咽頭結膜熱(アデノウイルスの感染症)はプール熱とよばれているもので、学校感染症のひとつです。夏に流行することが多いと言われていますが、現在、さいたま市内でも警報レベルで流行しています。

症状 : 高熱(39~40度)、のどの痛み、頭痛、食欲不振、結膜充血、めやにがでる など(3~7日間続く)

潜伏期間: 2~14日(特に5~7日)

登園基準: 発熱、咽頭炎、結膜炎などの主要症状が消失した後2日を経過するまで

飛沫感染と接触感染で感染します。予防のため、こまめに手洗いをすることを心がけましょう。



参考:さいたま市感染症情報センター

不審者対応訓練を行いました

11月10日に埼玉県警察防犯指導班ひまわりの方に来ていただき、不審者対応訓練を行いました。

前半は幼稚園に不審者が入ってきた時を想定した避難訓練、

後半は2,3組は防犯の人形劇を、1組は紙芝居を見ました。

(次ページ以降は、埼玉県警察防犯指導班ひまわりの方から提供いただいた資料になります)



県警マスコット「はちまわりん」

子どもの防犯 ワンポイントアドバイス

埼玉県警察 防犯指導班ひまわり

① 一人にならない



犯人は一人にいる子どもを狙います。
周囲に気づかれず、容易に近づき
連れ去ったりできるからです。

一人していると声をかけられやすく、もし何か起きても助けてもらえないので、一人にならないよう指導しましょう。

- ・ 友達と一緒に遊ぶ。一人で遊ばない。
- ・ 出かけた時には、保護者から離れない。
- ・ 下校時は一人になりやすいので、時折後ろを振り返る等、警戒する。

② 誘われてもついて行かない

犯人は、さりげなく子どもに近づき、
「お菓子買ってあげようか。」
「ちょっと、お手伝いしてくれないかな。」
「お母さんが事故に遭った。車に乗って。」
等と言葉巧みに誘います。

知っている人でも知らない人でも、

- ・ 家族に黙ってついて行かない。
- ・ 車には絶対に乗らない。

ことを指導し、誘われたら

「お家の人に聞いてきます。」

「困っているなら大人の人を呼んできます。」

とはっきりと断り、その場を離れましょう。



③ 大きな声で助けを呼ぶ

逃げる



怖いときや助けて欲しいときは

- ・ 大声で「助けて」と叫ぶ。
(近くにいる大人に助けを求める。)
- ・ 防犯ブザーや笛を吹鳴する。
(防犯ブザーや笛はいつでも手の届く所に
持ち、使用可能であるかを点検しましょう。)
- ・ 走って逃げる。

子どもに大声を出されたり、防犯ブザーを吹鳴されたことで、犯行を断念した犯人も多くいます。

④ 誰とどこで何時まで 何をするのが家の人に話す

外出するときは、必ず家の人に
誰と、どこで、何時まで、何をするのか
を話してから出掛けるように、習慣づけましょう。

また、家の人がないときには

- ・ 行先などメモに残す。
- ・ 親に電話連絡する。

など、黙って出かけることの無いようにしましょう。

お子さんの遊び場を把握しておきましょう。



⑤ 家に入る前に

自宅玄関を開けた途端、不審者に家に押し込まれてしまうと危険です。



- ・ 周囲を見回し、不審者がいないか確認してから鍵を開ける。
- ・ 家に入ったらすくにドアを閉め施錠する。

また、家が留守だとわからないよう

- ・ 鍵は人目につかないように持ち、家に誰もいないときでも、「ただいま。」と大きな声で言う。

⑥ 留守番をしているとき

自宅で留守番時のルールを決めましょう。

- ・ 訪問者が来てもドアは開けない。
- ・ 知らない番号の電話にはでない。
- ・ 他家の連絡先などを聞かれても、教えない。



万一に備え、必ず家族の連絡先(親の勤務先、携帯電話番号など)をわかるようにしておきましょう。

⑦ 公共トイレや エレベーターでは



公共トイレやエレベーターは
密室であり、盗撮やわいせつ等
の犯罪に遭いやすい場所でもあ
ります。

- ・ 公共トイレに一人で行かない。
- ・ エレベーター内では、ボタンを押せる位置に立ち、危険を感じたらすぐに降りましょう。

⑧ 安全圏の確保を



危険な人ってどんな人？
マスクをしてサングラスをかけている
から危険な人ではありません。
見た目で判断せずに、知らない人に声を掛けられ
たり、呼び止められたりした時には
相手が手を伸ばしても
自分に届かない距離「安全圏」
を保つようにして、「ちょっと嫌だな。」と感じたら、
すぐにその場を離れましょう。

⑨ 助けを求める場所

怖い目に遭ったときや困ったときには、近くの大人に助けを求め、110番通報や自宅への連絡をお願いすることを子どもに教えましょう。

子どもと一緒に街を歩き
避難場所として

- ・ コンビニエンスストア
 - ・ ガソリンスタンド
 - ・ 子ども110番の家(店)
- などがあることを教えましょう。



⑩ 話しやすい家庭環境を



恥ずかしさや恐怖、親から怒られるかもしれないという思いから被害に遭ったことを家族に話せない子どもも、中にはいます。

「危険な目に遭ったら必ず話してね。」
「胸やお尻など身体を触ってくる人がいたら教えてね。」と、犯罪被害を防ぐためにも。家庭でのコミュニケーションを大事にし、何でも話し合える関係を築きましょう。

⑪ 親子で練習！

万一来て備えて、「あなたなら、こんなときはどうするの？」とお子さんと一緒に、対応策を考え実践してみましょう。



親が不審者役になり

- ・ 子どもに声を掛け誘ってみる → はっきり「行きません。お家の人に聞いてみます。」と断れるか。
 - ・ 適切な安全圏を保てるか → 近づいたら離れることができるか。
 - ・ 子どもの手を掴み引っ張る → 大きな声がだせるか、防犯ブザーがひけるか。
 - ・ ランドセルに手をかけ引っ張る → ランドセルを脱ぎ捨て全力で逃げられるか。
- 等、お子さんと一緒に練習してみましょう。

「自分の命は自分で守ることの大切さ」を伝え、万一の際には危険から回避できる能力を高めましょう。

⑫ 地域力で守る！



子どもの下校時間に合わせた保護者の皆様の

「見守り活動」へのご協力をお願い致します。

地域住民の熱い視線や積極的な行動が子どもを守る第一歩です。

子どもの安全動画 埼玉県警公式 YouTube にて公開中！

●マクドナルド×防犯指導班ひまわり

～お外で遊ぶときのおやくそく～



●家に入る前の注意点



●エレベーター内の注意点

